

主要投資対象資産（マーケット）の変動率一覽（9/12-10/6）

	9月12日	10月6日	変動率(%)		
金利	コール翌日物	0.468	0.484	0.016	
	TIBOR 3ヶ月	0.85083	0.86750	0.01667	
	日本10年国債	1.530	1.375	(0.15500)	
	米FFレート	2.12500	2.00000	(0.12500)	
	TB 3ヶ月	1.47	0.45	(1.02)	
	米10年国債	3.72	3.45	(0.27)	
	独10年国債	4.17	3.75	(0.42)	
	大型株	1241.27	1047.42	(15.62)	
	中型株	1181.65	1020.64	(13.63)	
	小型株	1546.59	1287.47	(16.75)	
株式	日経平均225	12214.76	10473.09	(14.26)	
	日経JASDAQ平均	1332.76	1179.60	(11.49)	
	TOPIX	1177.20	999.05	(15.13)	
	NYダウ30	11421.99	9955.50	(12.84)	
	NASDAQ	2261.27	1862.96	(17.61)	
	イギリスFT100	5416.70	4589.19	(15.28)	
	ドイツDAX	6234.89	5367.01	(13.60)	
	フランスCAC40	4332.66	3711.98	(14.33)	
	スイスSMI	7215.50	6458.72	(10.49)	
	インドSensex	14000.81	11801.70	(15.71)	
	オランダAEX	399.57	312.56	(21.78)	
	ベルギーBEL20	3060.60	2567.59	(16.65)	
	ブラジルボスババ	52392.86	42100.79	(19.64)	
	ロシアRTS	1341.75	866.39	(35.43)	
	イタリアMIBTEL	21749	17976	(17.35)	
	カナダトロント	12769.58	10230.43	(19.88)	
	シンガポールストレイト	2570.67	2168.32	(15.65)	
	オーストラリアオールオーディ	4957.1	4544.7	(8.32)	
	香港ハンセン	19352.90	16803.76	(13.17)	
	上海総合	2079.673	2173.738	4.52	
	韓国総合	1477.92	1358.75	(8.06)	
	台湾加権	6310.68	5505.70	(12.76)	
	為替	米ドル	108.20	102.63	(5.15)
		ユーロ	151.64	138.79	(8.47)
		カナダドル	101.38	93.99	(7.29)
		英ポンド	192.46	181.29	(6.80)
		スイスフラン	95.10	89.70	(5.68)
		ノルウェークローネ	18.76	16.59	(11.57)
		スウェーデンクローナ	16.17	14.49	(10.39)
		豪ドル	88.15	75.22	(14.67)
ニュージーランドドル		72.18	66.20	(8.28)	
U.A.E.ディルハム		29.91	28.39	(5.08)	
タイバツ		3.17	3.02	(4.73)	
インドルピー		2.54	2.32	(8.66)	
南アフリカランド		14.62	13.01	(11.01)	
韓国100ウォン		9.93	7.80	(21.45)	
REIT		東証REIT指数	1,561.44	1,169.58	(25.10)
	NY原油	101.18	87.81	(13.21)	
	国内金価格	2758	3220	16.75	
	NY金価格	760.3	866.2	13.93	

*為替レートは10月7日10時半現在の東京市場でのTTTS（対顧客向け電信売り相場）

の事実上の破綻などから、再び週明け10月6日にはNY株は一時800ドルを超える大幅安を演じることとなった。

このようにマーケットが大激震に見舞われている時には、新聞、テレビなどから流される実に様々な断片的な情報に、我々は翻弄されがちだ。そしてこれらの情報の多くは1日限りの情報だ。しかし、このような時期にはもう少し長いタイムスパンでの物事の変化をトレンドとして把握することが有効だと思っただけだろうか。

取扱投信が運用対象とする市場を一覧で見る

図表は、リーマン・ブラザーズショックとも言われる9月15日直前の9月12日から、NY株が一時800ドル安となった10月6日までの、3週間あまりにわたる金融大混乱期中の投資環境の変化を総括したものだ。

ここで明らかとなり、世界中の株式ならびに外貨の対円相場は、ことごとく下落していることが分かる。さらには、REITは

もちろんのこと、原油も大幅に値を消している。

もちろん日米独自の債券は利回りが低下（価格は上昇）しているがこれは経済原則どおりだ。すなわち、経済が混乱、金融市場でリスクマネーが株式市場から流出する時には、その受け皿として債券が買われ、債券価格上昇⇨債券利回り低下となる。それ以外では、資産価値が明らかに一段高になってきているのはほとんど金のみだ。

もう少し細かく見ていくと、対円での為替相場では、高金利通貨

ほど下落率が高くなっていることが分かる。南アフリカランド、豪ドル、ノルウェークローネなどが軒並み10%以上下落している。

いまや銀行などの金融機関が取り扱っている投資信託が運用対象としているマーケットは実に多様だ。とするなら、これらの投資信託の受益者に対して、基準価額の変動要因やそのメカニズムについて説明するために、この種の主要マーケットの変化の方向性一覽とでも言うべきデータを常備しておいた方がいいのではないかと

日 経新聞に代表される経済、金融記事は、ただ漫然と読んだだけでは現場の業務に役立つものではない。なんとなく時間つぶしの世間話をするために、あるいはちょっとした話材として使うのであればかまわない。しかし、本気で仕事に生かすためには、ここで得た情報は何らかの形で整理され、認識した知識を使える状態にしておかなければならない。

古くから、大手証券会社の営業担当者が先輩から言われてきたことがある。それは「お前、少なくともその日の日経平均株価と出来高、それから円相場くらいは手帳にメモしておけよ」だ。

その積極的な意味がお分かりだろうか？ ただ単に備忘録としてメモすることにはとまらぬのだ。それは私なりに考えると、「毎日断片的にもたらされる各種データを、ある種の流れとしてみるためのもっとも原始的な方法」なのだ。ここでは「データは流れの中で見ていくことで初めて積極的な意味を持つ」ことが、ごく当たり前のこととして認識されてい

たのだ。

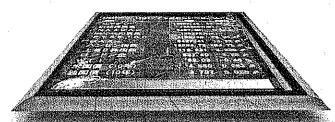
例えば、「日本時間、今朝7時現在における、NY市場でのドル円相場」について、「101円80銭です」という報道と「昨日に比べて2円95銭の円高ドル安です」という報道とでは、どちらのほうが付加価値が高いか？ 多くの人がとってはおそらく後者だ。

「101円80銭」といっても「前日比で1円円安・ドル高の101円80銭」であった場合と「前日に比べて2円95銭円高・ドル安の101円80銭」とでは、まったくそのデータが持つ意味が異なるのだ。つまり、データというものは、それ以前からの流れの中でのその数値を認識していくことによつて、より有意義な情報となる。

経済・金融混乱期には長いスパンでの観察が有効

さて、9月中旬以降に至り、米国発の経済混乱がほとんど危険水域に入った。事の起りは米大手投資銀行であるリーマン・ブラザーズの経営破綻（9月15日）だった。そしてその後も米大手保険会

角川総一の



マーケット・リテラシー
金融市場を読む、解く、話す力を養う

File 034

リーマン・ショックに始まる昨今の世界的な金融混乱をどう見るか？

投信が運用対象とする市場のデータを一覽表にして顧客説明に活用すべき